

# 平成26年度 事務事業マネジメントシート

事業名	生活保護法等に基づく扶助事業			会計	款	項	目	大	小
政策	04	4節	誰もが充実した生涯をおくることのできる流山（市民福祉の充実）	主管課	社会福祉課				
施策	4-3	誰もが安心して暮らすことのできる生活支援づくり		主管課長	矢口 道夫				

## I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	生活保護世帯	意図	生活に困窮する市民に生活保護費を支給し最低限の生活を保障する。
事業内容	困窮の程度に応じ必要な扶助を行い、生活困窮者に最低限度の生活を保障するとともに、自立支援のために必要な援助を行う。			
事業開始から現在までの状況変化	経済状況の悪化と高齢化の進行により生活保護受給者は増加傾向にある。これに伴い生活保護扶助費も年々増加している。			

## II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）	
	①	生活保護世帯数	981	1,042	1,074	世帯	\\ \\ \\	
	②							
	③							
	④							
指標で表すことができない定性的な成果	目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）						被保護世帯の増加により発生する事務の増量に対し、データシステムの導入により円滑な事務の執行を進めています。また、年金や就労収入の実態把握のために課税状況調査の実施、就労支援により自立の促進、訪問指導による世帯状況の把握など適切な事業実施に努めています。	
事務事業のコスト	平成24年度	平成25年度	平成26年度					
事務事業の総コスト(a=b+c)	2,460,068,303	2,405,305,205	2,480,782,430					
事業費(b)(円)	2,460,068,303	2,405,305,205	2,480,782,430					
うち一般財源	502,595,467	433,143,890	586,550,844					
職員給与費(c)(円)								
人役・職員(人)								
人役・再任用(人)								
人役・臨職(人)								
人役・嘱託(人)								
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）								
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）								

## III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

### (1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	A 必要性が高まると考えられる	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	A 市が担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	II 継続（事業を現状どおり継続すべき）					

### (2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H26)の改善計画	保護の実施体制の整備により、保護の支援指導や面接体制の強化など、保護の適正な実施をはかる	③取り組みの課題	保護世帯の増加により事務量が増加しており、適切な支援や指導を実施するためには、人員の拡充が必要な状況となっている。
②今年度(H26)に実施した取り組み	生活保護2係体制の中で、査察指導体制の強化ときめ細かな訪問指導に取り組んだ。	④今後の改善計画	担当現業員の増員を図り、適切な指導に向け訪問調査の充実を図る。